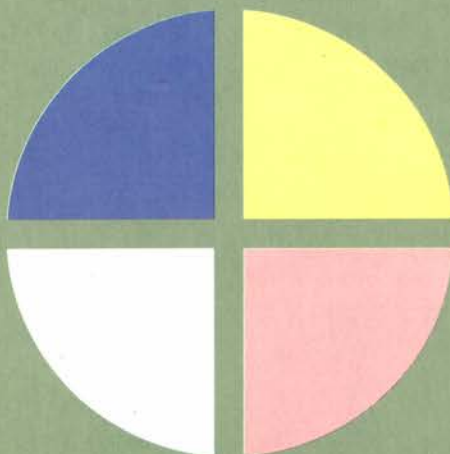
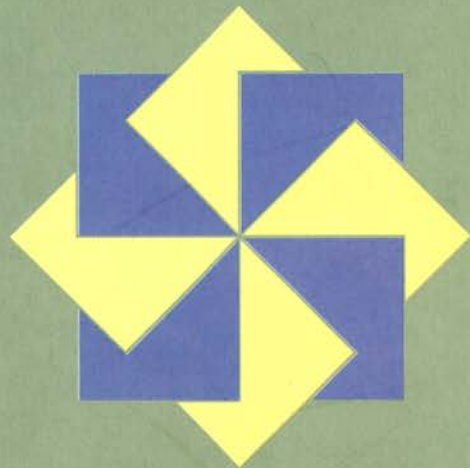
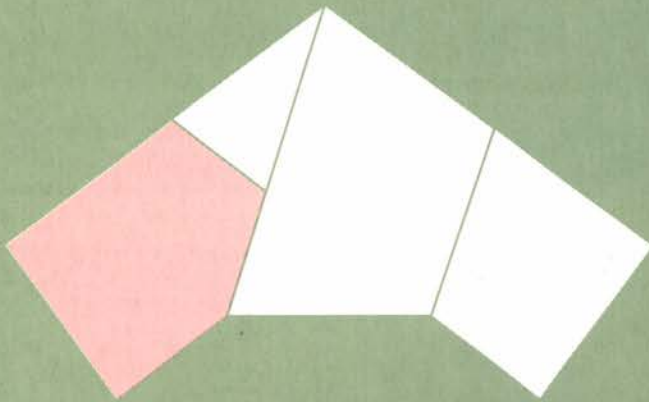
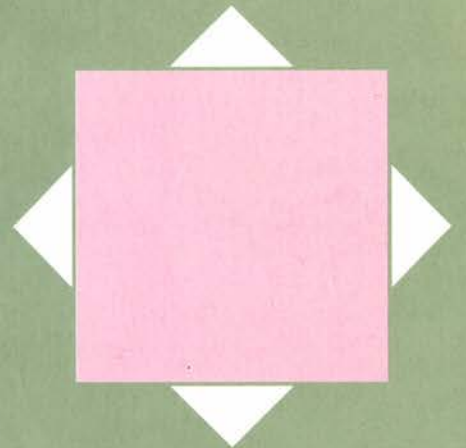
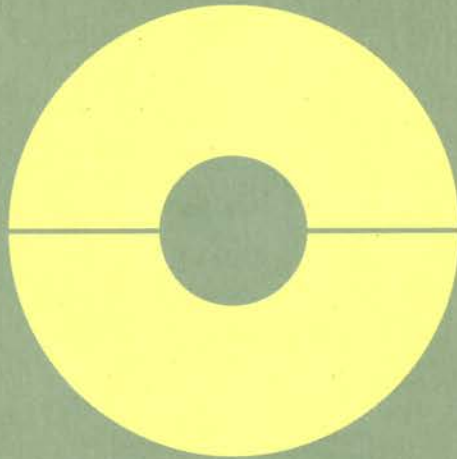


ともに担い、ともに築く、^{ひと}女と^{ひと}男の情報誌

わがはこ

No.29



も く じ

巻頭インタビュー	P 2
特集 女と男 何かへん?!	
こんな場合どうおもいますか?	P 4
女性の視点から	P 6
男性の視点から	P 8
女と男の垣根を低くして	P 10
若者たちは今	P 13
あざれあ散歩	P 14

——「ねっとわあく」をご覧になったのご感想をお聞かせください。

それぞれの号ごとに持ち味が違いますね。いろいろなところで頑張っている人を紹介するなど、身近な視点で作られているところが良いと思います。それにプロが作るのではない、素人っぽさがまた魅力ですね。

——静岡県のご感想をお聞かせください。

私が担当しているのは、福祉や商工など、生活に非常に関わりの深い部分です。県民の皆さんがして欲しいと思っっていることに応える行政をやりたいと思っています。

静岡といっても広いわけですが、それぞれの地域で、県民の皆さんが、自分たちの地域や産業をもっと良くするにはどうしたらよいかと考えていますね。もともと豊かな県ですが、皆さんで頑張ろうという気持ちがあるから、もっと伸びていきますね。そういう意味では素晴らしい県で、良い所だと誇りに思っています。

——男女共同参画社会に向けての県のお考えをお聞かせください。

県は、今年、男女共同参画社会に向けての「男女が共に創るしずおかプラン（以下プラン）」を作りました。このプランは、女性はどうでなくてはいけないなど性によって、行動の枠が決

まるのではなくて、男女が社会のなかで、あらゆる分野に共に関わるができるように、いろいろな役割を担っていきけるようにということを目指しているのです。

問題は、男女共同参画社会をどう実現していくかです。主役はやっぱり、女性、男性、県民一人ひとりだと思っのです。県民一人ひとりが考えて、行動していつて欲しいですね。行政は、それを精一杯サポートしたいと思います。

社会の中でどう生きていくのか、どのような社会が本当に県民にとって一番いい社会なのかということを考えてもらうことが大事ではないでしょうか。男性は「職場」にしかいかなくて、生活者である女性が政策決定に参画できないのもおかしなことです。

——県のプランをお聞きしましたが、私達も意識を変えていかなければなりませんね。

東京で仕事をしていたときは、自分が女だと意識することはほとんどありませんでした。でも、静岡では、女とか、男とか、意識している度合いがまだまだ強いなと思っました。

静岡の女性は、出産で仕事を辞める人が多いと聞っています。子育てと仕事の関わりは、基本的には個人の自由ですが、一旦仕事を辞めてしまうと、次にやりたいと思っ仕事に就けるチャンスは少ないのが現状です。そういう意味では、可能であれば仕事を続ける方が、仕事を生涯のものと思える人にはいいと思

います。子どもは母親が育てるものだから、おばあちゃんやおじいちゃんが倒れたら、お嫁さんが看るものだから、本人の意思とは別の思い込みが大きいように思っます。そこはもっと自由で、いろいろ選べて、いろいろな生き方ができることが大事だと思っます。

——現実には、仕事と家庭との両立は大変だと思っますが、副知事はどのようにされてきましたか。

実家にも、ずいぶん助けてもらいましたが、家族で助け合い、仕事を続けてこられました。夫は、私が仕事を続けていくのは当然だと思っっているし、子どもも、両親が仕事をするのは当たり前だと思っっているので、自分でできることは自分でやっっています。

世の中、歯をくいしばってやらなければならないときもあるけれど、何とか乗り越えることができるものです。すべてに百点満点で優等生でなくてもいいのです。夫婦や家族が、気持ちをおひとつにしてやっっていくこうとすることが大事ですね。これからは、男性も、24時間会社に奉仕するような働き方から、子育てでも仕事もできるような働き方に変わってほしいですね。

——私達も働き方についての考え方を変えていかなければなりませんね。

これからの社会で働いていくためには、女性も男性も専門性

副知事 坂本由紀子さん

を磨くことが必要です。私はこれができます”というものを、若いうちから意識して身につけることが大切です。それは30歳になっても、40歳になってもその人の力になるでしょう。そういう働き方を、自分の生涯設計のなかでもっと考えていったらどうでしょうか。



坂本由紀子（さかもと ゆきこ）

'72年、労働省入省。'91年職業安定局高齢・障害者対策部障害者雇用対策課長、'93年同部企画課長、'94年労働省婦人局婦人政策課長を経て、'96年4月から現職。三島市出身。

チャンス&チャレンジ

チャンスを見つけて、どんどんチャレンジしていこう。チャンスがあった時にチャレンジできるように、常日頃から自分を磨いておくことも大切です。前を向いて歩いていく、そんな姿勢が周りの人々にも、勇気と希望を与えることになるでしょう。

*男女が共に創るしずおかプラン

このプランは、男女を問わず県民一人ひとりが、社会のあらゆる分野に共に参画し、能力を発揮し、共に責任を負い等しく利益を享受できる社会のシステムづくりを通して、活力とゆとりに満ちた社会の実現をめざすものです。

計画の期間は、2004年を最終年度とする10年間です。

集 ^{ひと}女と男 ^{ひと}

特 ^{ひと}何かへん?!

なにげない暮らしの中で
人と人の関わりの中で
社会のうごきの中で

「女と男」
「え?」「ん?」「どうして?」「何かへん!」
と思いがたつことはありませんか
心にひっかかりながらつい見過ごしてしまう性差別に
あらためて目を向けてみませんか

就職活動で……



やる気はあるのに面接さえ受けられないなんて……

すか?



介護は誰がするの?

お義母さんの介護は嫁がするのでしょうか?
私の実母の介護は……?

保護者のサイン

子どもの連絡帳や成績表等の保護者欄に書くのは、父親の姓名。でも、書くのはほとんどが、母親。サインは本人がするものではないでしょうか?



へたな運転

「やっぱり女は、下手だな……」
「男のくせに、下手ね!」
性差で運転の上手、下手を決め付けていませんか?

こんな場合 どう思いますか?

子どもの育て方

男の子は勉強 女の子はお手伝い……
男の子は強く 女の子は優しく……
男らしさ、女らしさにこだわっていませんか?
子どもの個性を、生かす教育をしていますか?



男性も家事・育児

家事は、女性の仕事だと思いついていませんか?
家庭内の仕事は、家族の責任です。
家事・育児をする男性も増えてきました。
あなたの家ではどうですか?



接待のマナー

上司がどちらかわからない……?
そういう時は、性別で決めてしまっているのでしょうか?
上図のイラストでは、席順から考えると……?
あれ……? いいのかな……?

